

2 擦文文化の土坑墓UP - 1について

層中から擦文文化期の土坑墓(UP - 1)が検出された(P32~36)。今回の調査で確認された土坑墓はUP - 1の1基のみである。副葬品と考えられる遺物は覆土上面から、擦文土器の甕が4個、坏が1個、鉄製品では鍬先2本、刀子3本、鞘尻金具1個、鞘金具1個、棒状鉄製品1本、針1本、円盤状鉄製品1個が出土した。覆土内及び墳底からは伴う遺物は出土していない。人骨は検出されていないが、土坑の規模、形態から判断して伸展葬と推定できる。時期は、伴出した擦文土器と覆土中のB - Tmの存在(第4章第4節)から、擦文文化中期に相当し、10世紀中葉~後葉と推定される。炭素年代測定では、遺物の直下で検出された炭化物からは 1130 ± 40 y BP、土器の直下から出土した炭化物からは 1780 ± 40 y BPという結果がでている。この数値は遺物・火山灰の年代観とは差異がある。

ここではUP - 1の時期に比較的近い、擦文文化中期(9世紀後半~11世紀前半頃)~後期(11世紀後半~13世紀前後)の土坑墓と比較してみる。擦文文化期の墓の集成は鈴木 信「北大式以降の墓制について」『海峡と北の考古学シンポジウム・テーマ2・3資料集』(1999)を基にし、知見の資料を加えた。屋内墓については人骨などの痕跡が確認できるものを対象とした。

(1) 擦文文化中期

道央の千歳市と道南の森町とでみつがっている。森町御幸町遺跡では4基検出され、千歳市の遺跡では一遺跡内で1~2基検出されている。人骨が検出された例は2例ある。末広遺跡IP - 57(5)の人骨は比較的遺存状況は良く、成年男性と推定されている。ウサクマイ遺跡C地区でCP - 5(4)では歯のみ検出され、屈葬の可能性がある。また、美々8遺跡IH - 1上の墓(3)では遺体層が検出されている。同IP - 2(3)でも墳底から遺体層の可能性がある土層が検出されている。頭位がわかるものは2例のみで、南と南西がある。土坑の長軸方向については集中する方角はない。平面形は長方形、隅丸長方形、長楕円形、楕円形がある。美々8遺跡IH - 1上の墓は住居跡のくぼみを利用している。千歳市末広遺跡IP - 57は竪穴の中に土坑が構築されている。

遺物は覆土上面、覆土中、坑底のいずれも認められ、埋土上面出土のものが比較的多い。坑底から遺物が出土したものとしては、千歳市美々8遺跡IP - 2(2)がある。埋土中から出土した例としては千歳市メボシ川2遺跡IP - 19(1)、同ウサクマイ遺跡N地点第22号擦文式墓(6)がある。埋土上面から出土した例としては今回のチプニー2遺跡UP - 1(11)がある。また、末広遺跡IP - 57も竪穴内の土坑の埋土上面からのみ遺物が出土している。埋土中~坑底にかけて出土した例は、森町御幸町遺跡Pit92(8)があり、坑底直上から須恵器甕が出土している。同ピット1(7)では埋土上面から坑底にかけて土器、礫などが出土している。

遺物の種類は土器では甕、土師器系切坏が多く、完形または完形に近い状態で出土している。鉄製品が出土するのは3遺跡だけで、その中では刀子が目立つ。また御幸町Pit1からは土製垂飾が出土している。礫はウサクマイ遺跡C地区CP - 5(4)、御幸町ピット1からやや大形の礫がまとまって出土し、配石が推測できる。また、美々8遺跡IH - 1上の墓(3)の坑底からはベンガラが検出されている。

(2) 擦文文化後期

道東及び道南でみつがっており、特に道東の検出例が多い。一遺跡の検出数は、常呂川河口遺跡で7基、札前第一地点で10基など、ややまとまって検出されるものが多い。

人骨が確認された墓は7遺跡で8例ある。人骨が遺存した墓の多くのものが伸展葬と考えられるが、下田ノ沢遺跡第三トレンチ出土墓墳(19)は側臥屈葬で、伊茶仁カリカリウス遺跡3号土坑墓(21)例も屈葬と推定されている。人骨の遺存状況が比較的良いものとして、釧路市材木町5遺跡第24号住居跡内墳墓(39)、上ノ国町笹浪屋敷跡遺跡土坑13(26)がある。材木町5遺跡例は左側臥伸展葬で、成年~熟年女

まとめ

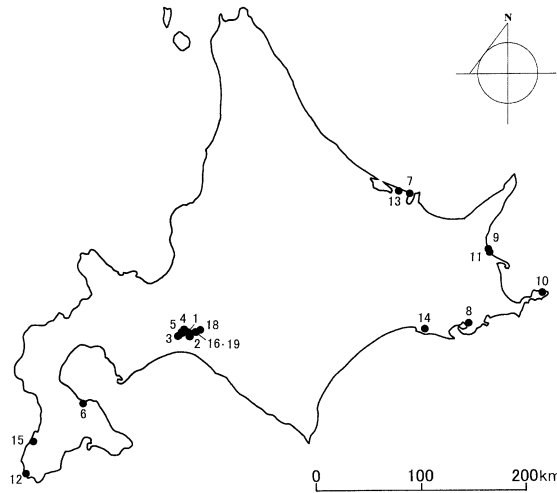


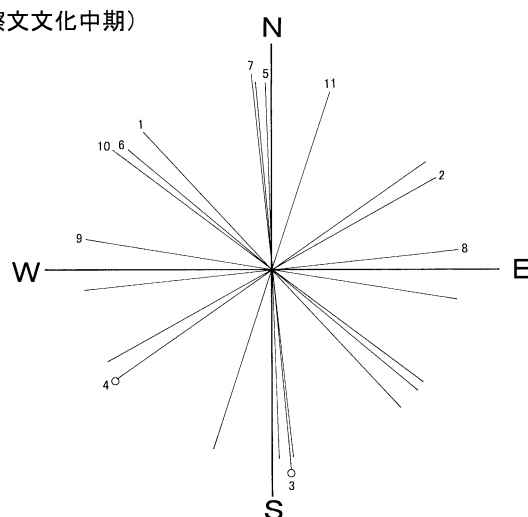
図 - 3 遺跡位置図

表16 擦文文化中～後期の墓一覧

遺跡番号	調査号	遺跡名	所在地	時期	遺構名	長軸方向	人骨	頭位	上場平面形	ピット	配石	遺物出土位置	出土遺物	備考
1	1	メロン川2	千歳市 旭志産	中期	TP-19	N-43-W	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
2	2	美々8	千歳市 美々	中期	TP-2	N-61-E	遺体腐?	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
3	3	美々8	千歳市 美々	中期	1B-1上の墓	N-5-W	遺体腐?	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
4	3	ワサマイC地区	千歳市 蘭越	中期	CP-5	N-55-E	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
5	4	木沢	千歳市 旭志産	中期	TP-57	N-2-W	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
6	6	ワサマイC地区	千歳市 蘭越	中期	第22号無文式墓	N-50-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
7	7	御幸町	森町 御幸町	中期	P11-1	N-6-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
8	8	御幸町	森町 御幸町	中期	P11-92	N-84-E	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
9	9	御幸町	森町 御幸町	中期	P11-93	N-81-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
10	10	御幸町	森町 御幸町	中期	P11-124	N-53-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
11	11	チブニー2	千歳市 中央	中期	UP-1	N-18-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
12	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット27	N-89-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
13	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット28	N-54-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
14	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット33	N-5-W	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
15	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット33a	N-52-W	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
16	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット49	N-47-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
17	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット175	N-28-W	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
18	7	常呂川河口	常呂町 常呂	後期	ピット176	N-87-W	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
19	8	ト田ノ沢	厚岸町 別業辺半	後期	第三トレンチ墓	N-52-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
20	20	伊奈仁カリカリウス	標津町 伊奈仁	後期?	1号土甕墓	N-71-W	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
21	21	伊奈仁カリカリウス	標津町 伊奈仁	後期?	3号土甕墓	N-78-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
22	22	伊奈仁カリカリウス	標津町 伊奈仁	後期?	2号土甕墓	N-78-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
23	23	トーサムボロ18	根室市 豊里	後期	1号墓	N-44-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
24	24	トーサムボロ18	根室市 豊里	後期	2号墓	N-42-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
25	11	伊奈仁墓地	標津町 伊奈仁	後期	第6号住居内墳墓	N-53-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
26	26	海浜部敷	上ノ国町 上ノ国	後期	土甕15	N-68-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
27	18	門山	栗山町 門山	後期	N-79-W	N-79-W	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
28	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	2P	N-9-E	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
29	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	8P	N-11-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
30	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	11P	N-11-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
31	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	4P	N-44-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
32	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	5P	N-83-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
33	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	10P	N-77-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
34	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	9P	N-22-E	—	—	長楕円形	—	—	②	土甕器系切坏1	
35	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	7P	N-63-W	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
36	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	6P	N-84-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
37	12	札前第一地点	松前町 札前	後期	9P	N-74-E	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
38	38	栄通第一	松前町 札前	後期	P20	N-43-W	—	—	隅丸長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
39	49	村木町	網走市 村木	後期	第21号住居跡内墓	N-60-W	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
40	16	キウス5A-1地区	千歳市 中央	不明	UP-119	N-40-E	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	
41	17	青苗	奥尻町 青苗	後期	山本台地 墳墓	—	—	—	長方形	—	—	②	土甕器系切坏1	

注 遺物出土位置の◎は副葬品の可能性が高いもの、○は副葬品かどうか不明瞭なものである

(擦文文化中期)



(擦文文化後期)

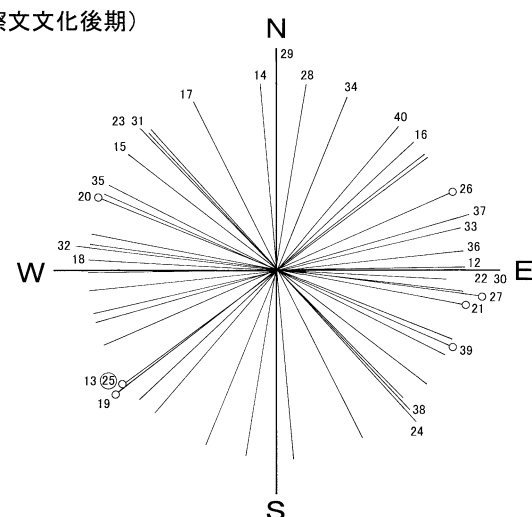
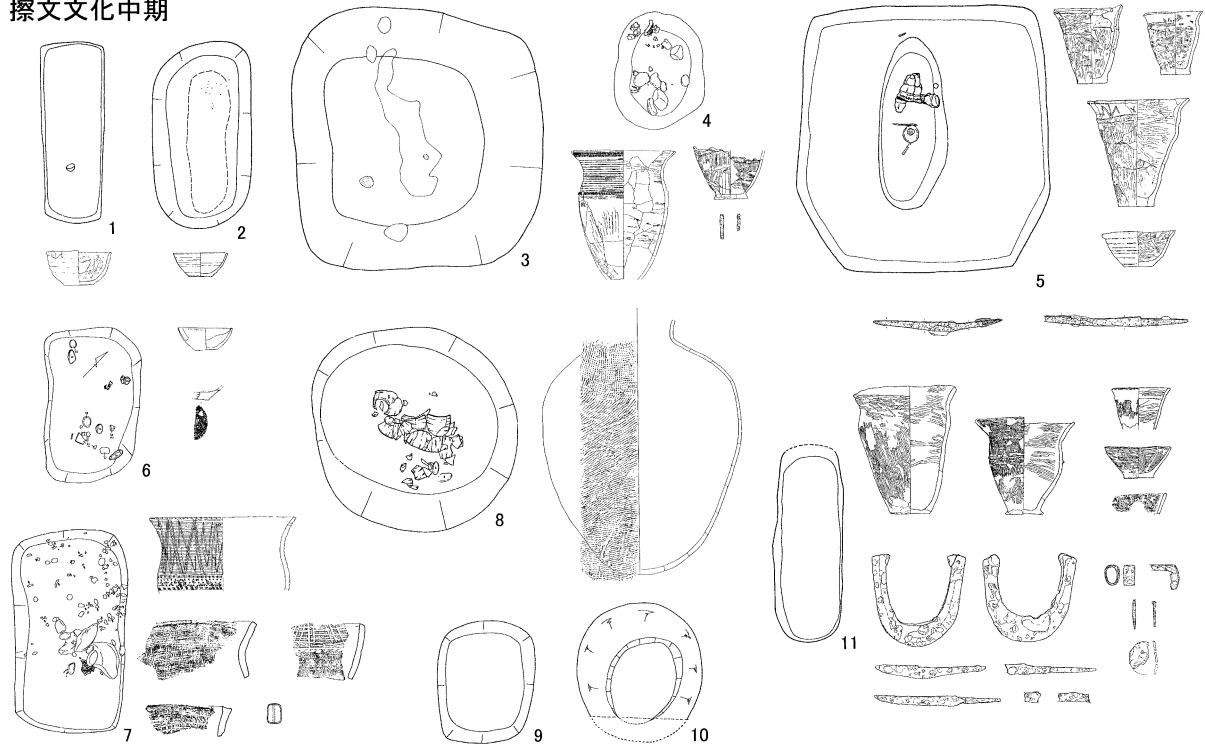


図 - 3 土坑墓の長軸方向 (は頭位の方)

擦文文化中期



擦文文化後期

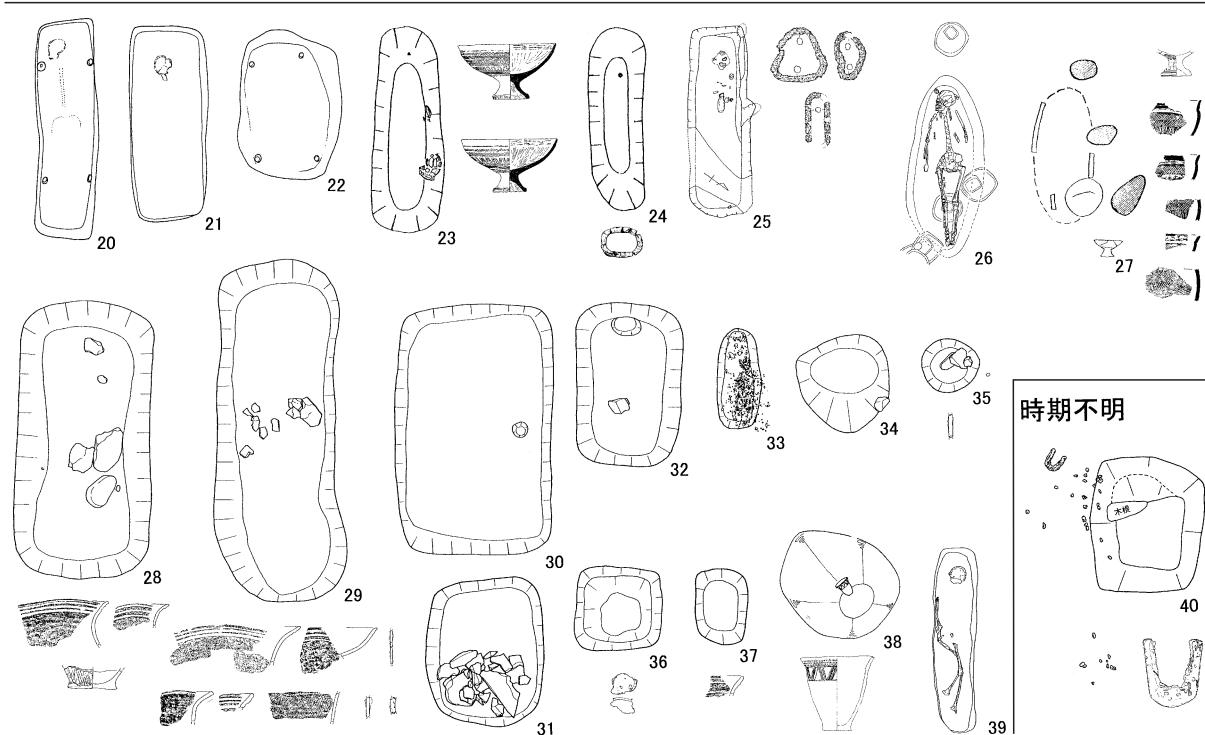
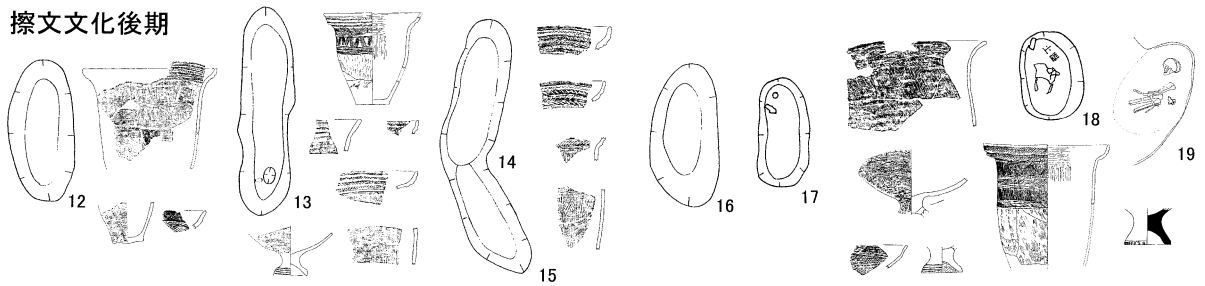


図 - 4 擦文文化期中～後期の土坑墓

(土坑平面図はS = 1 / 80、復元土器はS = 1 / 16、拓本土器はS = 1 / 12、鉄製品は任意の大きさである。)

まとめ

性、笹浪屋敷跡遺跡例は男性と推定されている。標津町伊茶仁カリカリウス遺跡1号土墳墓(20)では頭骨、背骨、骨盤部の痕跡が、同伊茶仁遺跡B地点第6号住居内墳墓(25)では頭骨と歯のみ確認された。奥尻町青苗遺跡山本台地墳墓は頭骨と下肢骨の一部が遺存していた。栗山町円山遺跡(27)出土の人骨は墓出土の人骨として唯一被熱が報告されている。頭位が明らかなものは8例あり、方向は東が多く、南西も認められる。土坑の長軸方向については集中する方角はない。

平面形は長方形、隅丸長方形、方形、長楕円形、楕円形、不整楕円形がある。また、円山遺跡、青苗遺跡山本台地墳墓には掘り込みがない。住居内に構築された例として伊茶仁遺跡B地点第6号住居内墳墓、材木町5遺跡第24号墓墳がある。付属施設は伊茶仁カリカリウス遺跡1・2号土墳墓(20・22)と、札前遺跡第一地点5・11P(30・32)から小型のピットが検出されている。伊茶仁カリカリウス遺跡例は土坑の四隅に柱穴状のピットが検出されている。

遺物は覆土上面、覆土中、坑底のいずれも認められ、埋土中～坑底出土のものが比較的多い。坑底から明らかに副葬品が出土した例は、道東の常呂川河口遺跡ピット27(12)、下田ノ沢遺跡第三トレンチ墓墳(19)、根室市トーサムボ口遺跡L8地点1・2号墓、伊茶仁遺跡B地点第6号住居内墳墓がある。また、円山遺跡、青苗遺跡では人骨のそばから遺物が出土している。埋土中から副葬品が出土した例としては常呂川河口遺跡ピット28・176(13・18)、同栄浦第一遺跡ピット20(38)がある。埋土上面から副葬品と考えられる遺物が出土する例は少ないが、札前遺跡第一地点のピットの埋土上面～埋土中にかけて、大形の礫がまとまって出土している。

遺物の種類は土器では甕、高坏、装飾品として銅製、錫製の環、他に礫が多い。他に円山遺跡からはキテと思われる骨角器の小片が出土し、青苗遺跡山本台地墳墓からは刀、硬玉製勾玉、水晶製、ガラス製の玉類が出土している。完形の土器は少量で、鉄製品の出土はほとんどみられない。

キウス5遺跡A - 1地区UP - 119(40)は、土坑の形態、遺物の出土状況から中～後期の可能性がある。

(3)小結

以上概観したが、これらは鈴木 信の論考とほぼ一致する。擦文文化期の土坑墓は前期の検出例は比較的に多いが、中期～後期の検出例は少ない。とりわけ中期の土坑墓は検出例が少なく、後期はやや多くなる。分布は、中期が道央に多く、後期は道東、道南に多い。1遺跡内の検出数は、中期はわずかで、後期は比較的多い。全体的に人骨や遺体層の検出されるものは少ないが、頭位は中期では南、南西方向、後期では東、南西方向に認められる。中期は一遺跡内の土坑墓においても形態、副葬品などに個々の違いがみられ、後期は一遺跡内の土坑の形態や副葬品の出土位置などにやや共通性がみられる。平面形は擦文文化中～後期を通じて長方形、隅丸長方形、長楕円形、楕円形のものがある。人骨の遺存状況から中～後期を通じて屈葬、伸展葬のどちらも存在するが、平面形をもとに推測すると伸展葬の方が多いと推定される。

遺物の出土位置は中期では埋土上面～埋土中が多く、後期では埋土中～坑底にかけてが多い。遺物の種類をみると、土器は甕が中～後期を通じて出土し、中期は坏、後期は高坏が多い。中期は刀子が多く、後期は青苗遺跡山本台地墳墓で刀が出土しているが、鉄製品は全体的に少ない。装飾品は中期では土製垂飾のみで、後期は玉類や銅製、錫製の環など種類、量共にやや多くなる。礫は配石と考えられるものとして、中期では御幸町遺跡Pit1、ウサクマイC遺跡CP - 5、後期では札前遺跡第一地点のピット群と下田ノ沢遺跡第三トレンチ墓墳がある。

チブニー2遺跡のUP - 1は、規模、形態、遺物の出土状況などは中～後期の他の検出例に類例を求めることができる。特徴としては、中期～後期の土坑墓を通じてみても副葬品が多く、鉄製品がまとまって出土した点が挙げられ、中でもU字形の鍬先の出土は大きな特徴といえる。(広田)